

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590103010		
法人名	株式会社セービング		
事業所名	グループホームあやらぎ ユニット1		
所在地	山口県下関市綾羅木新町1丁目16－13		
自己評価作成日	平成27年12月20日	評価結果市町受理日	平成28年5月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成28年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭と同じ状況で、自分らしさを持って笑顔で楽しく安心感を持って生活して頂けるよう、支援している。また、出来る事は積極的に参加していただくように声掛けをおこなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価結果を受けて話し合わせ、つづやきノートを活用されて利用者の思いの把握につなげられたり、サービス情報提供票にチェック項目を設けられて日々のケアを確認されるなどの改善に取り組み、利用者の生活が単調なものになっていないかを見直され、毎日の食材の買い物に利用者も一緒に行って、外出の機会や活躍の場を広げられるよう支援されています。大学生の実習の受け入れをきっかけに、大学キャンパスでの焼き芋会や学生との粘土細工の楽しみにつなげられ、家族会でも粘土細工をして一緒に楽しんでおられるなど、地域の人や家族と連携した支援に取り組まれている他、職員の意見から、誤薬を防止するためのチェックボードを作成されるなど、サービスの向上に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104018		
法人名	株式会社セービング		
事業所名	グループホームあやらぎ ユニット2		
所在地	山口県下関市綾羅木新町1丁目16－13		
自己評価作成日	平成27年12月20日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成28年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭と同じ状況で、自分らしさを持って笑顔で楽しく安心感を持って生活して頂けるよう、支援している。また、食事は季節感を感じられるよう努め、1日三食毎日手作りにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1 ユニット1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を作り、それに沿って日々の介護を行っている。毎朝の申し送り時に理念とグループホーム職員の心得を唱和し、理念の意味を認識して介護にあたっている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示し、毎朝の申し送りや全体ミーティングで唱和している。管理者と職員は理念の理解に努めて、ケアの振り返りをし、行動の指標として、理念の実践につなげている。	
2 ユニット1	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の避難訓練の際には、地域住民の方にも参加して頂き、その後、茶話会をひらき施設や認知症高齢者理解の場を設けている。また地域企業のボランティアの参加をしていただきイベントを開催している。	事業所の避難訓練に地域の人の参加があり、同時に茶話会を開催して事業所や認知症高齢者への理解を図っている。中学生の職場体験や大学生の実習を受け入れている。バイオリンやフルート演奏、読み聞かせ、アンフィニ演奏会、けん玉、フラダンスなどのボランティアの来訪がある。利用者は日々の買い物や散歩時、安岡ふるさと祭りや綾羅木ふるさと祭りの出店などで地域の人とふれあい、交流している。	
3 ユニット1		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生や資格取得の為の訓練校などの実習生の受け入れも積極的に行っている。また、施設の見学希望者を随時受け入れている。		
4 ユニット1	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価でのアドバイスを活かし、ケアの向上に役立てている。また、職員個々で分担して行い、事案全体を皆で検討するようにしている。それによって自分達のケアの見直しに活かしている。	評価の意義を管理者が合同ミーティングで出席職員に説明し、欠席者にはミーティングノートで伝達している。自己評価は項目を分けて職員が分担して記入したものを管理者がまとめ、ユニット毎に閲覧しているが、全職員が自己評価に取り組んでいるとは言えない。外部評価結果を受けて話し合い、つぶやきシートを活用して利用者の思いの把握につなげたり、利用者が充実した生活を送れるよう、サービス提供状況表にチェック項目を設け、日々のケアを確認するなど、具体的な改善に取り組んでいる。	・全職員での自己評価の取り組み

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5 ユニ ット 1	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の取り組みに加え、事故報告やヒヤリハットも報告したり、評価委員へ質問を投げかけるなど、情報交換したりアドバイスをもらいながらサービスの質の向上に役立てている。	会議は2ヶ月に1回開催し、現状報告や行事報告、研修報告、ヒヤリハット報告、外部評価報告などをして、話し合っている。地域の情報を得たり、地域メンバーの避難訓練への参加やボランティアとしての来訪につなげている。他、避難訓練後の茶話会を開催して参加者の交流を図るなど、意見をサービス向上に活かしている。	・記録の工夫
6 ユニ ット 1	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスの取り組み方などで不明な点があれば質問状を使用したり、介護保険課に出向くなど、随時相談している。	市担当者とは申請事務などで出向いて情報交換をしたり、FAXでの質問票を活用して連絡し、助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは運営推進会議時に情報交換をして連携を図っている。	
7 ユニ ット 1	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が協力し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、日々の申し送りの際や、月に1度の職員ミーティングの中で身体拘束に関する研修を取り入れ、身体拘束について正しく理解できるように努めている。	法人研修で年1回学んでいる他、月1回の職員ミーティングで話し合い、全職員が身体拘束について理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて気になるところは管理者が指導したり、職員同士が注意し合っている。ドラッグロックについては主治医と連携している。玄関の施錠はしていない。	
8 ユニ ット 1		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で高齢者虐待防止について学び、防止に努め、利用者の方に虐待が行われないように注意を払い、安心して生活を送れるように努めている。		
9 ユニ ット 1		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に1度の職員ミーティングの中で、日常生活自立支援について話し合ったり、権利擁護に関する研修を取り入れている。また現在成年後見制度を活用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	ユニット1	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、細心の注意を払い、疑問がないか問いかけるようにし、安心して利用して頂けるように努めている。また、重要説明事項説明書と契約書の控えをわたし、疑問点などあれば、その都度対応している。		
11	(7) ユニット1	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要説明事項に苦情についての窓口や解決に向けての流れなどを記載している。また、苦情受付第三者委員を設置している。玄関に意見箱を設置し意見出しやすく、相談しやすい環境作りに努めている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。意見箱を設置している。面会時や2ヶ月に1回の家族会参加時、運営推進会議参加時、電話などで家族から意見や要望を聞いて、管理者や職員は申し送りノートで共有している。転倒しやすい利用者の椅子を肘掛け付に変更するなど、意見を運営に反映させている。	
12	(8) ユニット1	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や施設長が毎月定期的に、入居者や職員と一緒に食事をする機会を設け、その際に職員からの意見や要望、提案を聴き、反映できるように努めている。また、日頃から管理者が傾聴に努めるようにしている。	運営者も参加する月1回の全体ミーティングや毎日の申し送りで職員の意見や提案を聞いている他、管理者は個別に相談しやすい雰囲気をつくるよう取り組んでいる。職員の意見から誤薬防止のチェックボードを作成したり、年3～4回開催する常勤者ミーティングで年間行事や仕事の分担を決めているなど、意見を運営に反映させている。	
13	ユニット1	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務を作成する際に前もって希望の休みを聞き、働きやすい環境になるように努めている。また、外部研修などの際には有給をとってもらうようにしたりと各自が向上心を持って働けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度のミーティング時に加え、ユニット1単独のミーティングを行い、研修を行っている。また、外部研修の案内を回覧し情報提供している。新人研修資料を作成し、新人研修の際に使用している。	外部研修は、職員に情報を提供し、業務の一環として実践者研修を1名受講しているが、参加の機会が多いとは言えない。内部研修は、法人が企画した項目（応急手当、接遇、食中毒、脱水、熱中症、認知症、虐待、身体拘束、権利擁護、リスクマネジメント、プライバシー、緊急対応等）について全体ミーティング時に管理者が講師となって実施している。新人研修は、管理者やユニットリーダーが1日研修を行い、ユニット毎に研修を行ったうえで、先輩職員が業務の中で指導している。	・外部研修への参加機会の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、ブロックの研修会や懇親会に出席するなど、同業者とのネットワーク作りや交流をはかるように努めている。また、同業者の施設見学などをおこない自施設のサービスの質向上に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をしっかり聴いて本人の希望や、思いを受け止めるように努めている。また、本人が不安や悩みを訴える時には、十分に傾聴し安心して頂けるようにし、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前後で家族としっかり話をし、不安な点や困っている点要望などを聴きながら家族との信頼関係の構築に努めている。また事前に事例ケースを紹介するなど具体的に説明を行っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人とのヒアリングやセンター方式、などにより、本人の希望や問題点を見極め、何が一番必要なのか最善のサービスを考えながら支援するように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19 ユニ ット 1		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理、家事など生活全般にわたり、できる範囲で共に行えるよう参加していただき、各自役割を持ってもらうことで関係を築くように努めている。		
20 ユニ ット 1		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡、ホームたよりなどで、ホームでの様子をお知らせし、家族と話す機会を作る。家族に協力して頂き、絆を大切にしながら支援するように努めている。		
21 ユニ ット 1	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、友人に面会に来て頂いたり、ニーズに応じて外出介助をするなど、家族にも協力をお願いしながら支援するように努めている。	家族の面会や親せきの人、近所の人、サークル仲間などの来訪がある他、電話や年賀状、手紙での交流を支援している。家族の協力を得て、公民館でのカラオケ教室への参加や、正月の帰宅、墓参り、法事への参加、外泊など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22 ユニ ット 1		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもりがちになりやすい方には声かけをし、共有スペースにて皆でできる事をし、職員も中に入って、話しやすい楽しい環境を作り、孤立することのないように努めている。		
23 ユニ ット 1		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、本人の所へ足を運ぶなどしている。また、家族と連絡を取り合いながら今後の相談など、支援するように努めている。また、サービス提供中にも多くの情報の提供を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24 ユニ ット 1	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、家族の思いを尊重し、出来るだけ希望通りに生活できるよう、心のこもった対応に努めている。また、個々の生活歴や、アセスメントをしっかりと把握している。	入居時にアセスメントシートに生活歴を記録し、ケアの中で得た情報も書き加えている。利用者との会話や気づきを利用者を担当する職員が介護経過記録やつぶやきノートに記録し、個別ミーティングで職員間で話し合っており、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から聞いたり職員間で話し合っており、本人本位に検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	ユニット1	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前の家族との会話の内容や、センター方式、情報提供資料などを回覧し、内容を把握できるように努めている。また、情報を事務所の観覧しやすい場所に置き、いつでも見直せるようにしている。		
26	ユニット1	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々職員同士でしっかり申し送りを行い、ケアが途切れないように努めている。また、月に1度のミーティングにやユニットミーティングの中で一人ひとりについて話し合い、心身の変化や現状把握に努めケアに反映させている。		
27	(12) ユニット1	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向や本人の意向を反映させながら介護計画を作成している。また、面会時には本人の様子を伝えるようにし、必要に応じて職員同士や家族と話し合い介護計画の見直しに活かせるように努めている。	計画作成担当者と利用者を担当する職員が中心となって、個別ミーティングで職員間で話し合い、本人や家族の思いや意向を反映した介護計画を作成している。援助目標を立て、サービス提供状況表で毎日ケアをチェックし、6ヶ月毎にモニタリングを実施している。6ヶ月または1年毎に計画の見直しをしている。他、利用者の状態に変化が生じたときはその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28	ユニット1	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に細かく記録し、別に何か変化があった場合は連絡ノートに記入するようにし、情報を共有するようにしている。また、必要に応じて職員同士や家族と話し合い介護計画の見直しに活かせるように努めている。		
29	ユニット1	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに応じて外出介助を行ったり、定期的な日程以外のドクターの往診の依頼や通院介助などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のカラオケ教室に通ったり、地域の美容室に訪問してもらい、散髪してもらったりしている。また、定期的に地域ボランティアを受け入れるなどし、楽しく暮らせるように努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を設け、適切な医療やアドバイスを受けられるよう、情報提供も行っている。また、かかりつけ医の決定は本人や家族が自由に選択できるようにしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医に、家族の協力を得て事業所が受診の支援をしている。2週間に1回医師の往診があり、外部の訪問看護師が週1回、内部の訪問看護師が週2回来訪し、利用者の健康チェックや医師連絡、職員からの相談などを行っている。家族や職員間で情報を共有し、緊急時はかかりつけ医や協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の気になる点や心体変化などを訪問看護や看護職員に随時相談しており、急な体調不良が発生した場合などに適切な処置やアドバイスが受けられるように努めている。また定期的に訪問してもらい相談の場を設けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院以前の状態を情報として提供し、入院の際には定期的に足を運び、家族や主治医、医療相談員などと情報交換をし本人の状況把握に努めている。また退院後、適切なケアができるように、職員同士で情報を共有し、受け入れ態勢を整えておくように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における指針」について、事業所のできる事、できない事を説明し、同意をいただいている。また、控えを家族にわたすようにしている。また、協力医療機関にも相談しながら取り組んでいる。家族とのニーズの共有も定期的に行っている。	契約時に「重度化した場合における指針」に基づいて、事業所のできる対応につて家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族やかかりつけ医、協力医療機関と話し合い、移設も含めて方針を共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ミーティング時にリスクマネジメントについての研修を取り入れ、ヒヤリハットのあり方を再認識して事故防止につなげられるよう努めている。また、救急隊員による応急手当の実習に加えミーティング時の研修でも応急手当を取り入れ実践している。	事例が生じた場合はリスクマネジメント事例シートや事故報告書に、その場にいた職員が状況を記録して回覧し、対応策を検討し送りノートで共有している。必要があれば全体ミーティングで話し合っ服薬チェックボードを作成するなど、改善につなげている。利用者の離設に対応する連絡網の整備に取り組んでいる。消防署の協力を得て救命救急講習(AED、タッピング等)の受講をしている他、内部研修で年2回、応急手当、リスクマネジメント、緊急時対応、誤嚥などについて学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や水害訓練は行っていないが、避難訓練の前に配布する案内の中に天災について触れ、火災だけでなく地震や水害時にも協力が得やすくなるように努めている。また、地域企業とも災害発生時の協力体制についても話し合っている。	消防署の協力を得て、年2回、昼夜を想定した消火、通報、避難訓練を地域住民や利用者も参加して実施している。運営推進会議で見守りや誘導の役割分担を検討し、婦人会を中心に地域の緊急連絡網の整備に取り組むなど、地域の企業や組織との協力体制について話し合っている。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に注意して自尊心を傷つけないようにする事を常に頭に入れている。また、月に1度のミーティングの中で、対応についての研修も行っている。	内部研修で接遇について学び、人格の尊重とプライバシーの確保、守秘義務についての理解に努め、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になるところは管理者が注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日その日の体調を考慮し、本人の希望を聴くようにし、本人が希望を出しやすい環境作りや、自己決定しやすいような声かけや対応をするように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39 ユニ ット 1		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで業務を優先させるのではなく、本人主体という事を意識しながら支援している。毎朝の業務心得の唱和の際に指針として組み込実行している		
40 ユニ ット 1		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、地域の美容院に散髪に来て頂いている。パーマや染髪などの要望がある場合には、家族と連絡を取り合いながら、できるだけ要望が叶えられるよう努めている。また好みの衣服をご用意したり、化粧道具の使用や、髭剃りなどに気を配るようにしている。		
41 ユニ ット 1	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片づけもできる範囲で一緒に参加して頂きながら朝食、昼食、夕食3食とも作るようにしている。また、食材の買い物と一緒にを行うようにしている。	事業所の畑で収穫した野菜や家族からの差し入れの野菜などを使い、三食とも事業所で調理している。利用者は食材の買い物や下ごしらえ、台拭き、配膳、食器洗い、お盆拭きなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じものを同じテーブルで食べて、会話を楽しんでいる。行事食(お誕生日会、クリスマス会、そうめん流し、花見弁当など)や外食(回転ずし、ハンバーガー、ファミリーレストラン)、1日2回のおやつ、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができるよう支援している。	
42 ユニ ット 1		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量などを記録し、把握するようにしている。食事摂取量の少ない方に関しては、どうしたら食べられるか考え食べやすい形態にするなど工夫している。		
43 ユニ ット 1		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員と一緒に、個々のできる範囲で、声掛けや、見守り、介助をおこないながら食後に歯磨きやうがい、義歯の洗浄などを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44 ユニ ット 1	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的な声かけやトイレ誘導することでトイレでの排泄に努め排便の状態にも気をつけている。また、主治医や看護師と連携をはかり、薬調整を行い支援している。	健康チェック表や介護記録を活用して、排泄のパターンを把握し、声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45 ユニ ット 1		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行い、野菜中心のメニューを心がけている。適度な運動(ラジオ体操や散歩)を取り入れ、主治医や看護師と連携をはかりながら支援している。		
46 ユニ ット 1	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に2日おきに行い、本人の希望に応じた時間、入浴方法で楽しく気持ちよく満足して頂けるよう、支援している。また、体調に合わせて清拭や足浴を行っている	入浴は毎日可能で、11時から12時までの間と13時から14時までの間、3日に1回はゆっくりと職員との会話を楽しみながら入浴できるよう支援している。温泉好きの人には入浴剤を使う、シャワー浴、部分浴、足浴、清拭など、一人ひとり希望や状態に合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。	
47 ユニ ット 1		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や、その日の体調に応じて休息したり、安心して気持ちよく眠れるように支援している。また、寝具の清潔保持にも気を配っている。		
48 ユニ ット 1		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬状書を事務所の見やすい場所に置き、再確認しやすいように工夫している。内容に変更があった場合は連絡ノートに記入し、情報を共有している。また、服薬確認の管理をおこない、万が一服薬ミスがあった場合の対応ルートを明確にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前の資料や家族との話の中から本人の生活歴や得意な事、趣味などを把握し、家事や楽しい事をして過ごして頂いている、本人の好きな事を選択し楽しめるように努めている。	2ヶ月に1回の家族会(年末大掃除、年越しそば、粘土細工、花見)、敬老会、誕生日会、節分祭、クリスマス会、テレビの視聴(のど自慢、歌番組など)、新聞や雑誌を読む、歌を歌う、カラオケ、ぬり絵、はり絵、紙花づくり、輪飾りづくり、トランプ、カルタ、パズル、ラジオ体操、口腔体操、鉢植えの世話、プランターや畑での収穫、屋上から花火を見る、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の準備や片付けなど、一人ひとりに合わせた楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日には、散歩に行くように努めている。また、外出や外食などを利用者の要望を取り入れながら計画し支援している。また、ご家族との団らん機会などを、積極的に設けている。	花見(桜、バラ、紅葉)、外食((回転ずし、ファストフード店、ファミリーレストラン)、安岡ふるさと祭り、綾羅木ふるさと祭り、火の山海峡ビュー、海響館、園芸センター、地元大学での粘土細工や焼き芋、法人他施設でのイベント、日々の買い物や近隣への散歩などの他、家族の協力を得て、公民館でのカラオケ教室への参加、正月の帰宅、墓参り、法事への参加、外泊など日常的に外出できるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の了解を得て、お金を預かるようにし、希望があれば使えるように支援している。また、現在はいないが、お金を持ちたい方に関しては、家族としっかり話し合ったうえで所持して頂けるようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望する方などに年賀状や手紙を職員と一緒に書いている。電話の希望がある場合は電話が出来るように配慮し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁画や飾り付けにしたり、装飾物などを工夫し季節感が持てるように努めている。また、外にテラスがあり、建物の外でも居心地良く過ごして頂けるように努めている。利用者の混乱や不安を発見次第、改善するようにしている。	共用の空間には利用者と一緒につくった季節の壁面飾りや作品、行事の写真などを飾っている。8畳の畳のコーナーにテレビを置き、テーブルや椅子、ソファを使いやすく設置している。対面式のキッチンは開放的で、利用者も職員と一緒に食事をつくる音や匂いのある生活感を楽しんでいる。リビングの大きな窓からは明るい光が差し込み、加湿器等を利用して温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や少し離れた場所にソファを置くようにし、好きな場所で過ごして頂きやすい環境作りに、柔軟に対応している。また、建物の外でもゆっくりできるように外にテラスを設けている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、なるべく本人の馴染みの物を置いて頂くようにし、居心地良く過ごして頂きやすくなるように努めている。また、今までの生活習慣を続け易い環境づくりに工夫している。	箆笥、整理棚、衣類かけ、鏡、椅子、マッサージ器、テレビ、衣類、化粧品、雑誌、カラオケテープなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真やカレンダー、折り紙作品、ちりめん細工などを飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレなどに手すりを設置し、安全に過ごして頂けるように努めている。また、トイレや浴室のドアには、わかりやすいように目印を付けるなど工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営				
1 ユ ニ ツ ト 2	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に理念とグループホーム職員の心得を唱和し、理念の意味を認識して介護にあたっている。事業所の理念を作り、理念に沿うよう日々の介護を行っています。	
2 ユ ニ ツ ト 2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加したり、地域住民の施設の避難訓練への参加される形を取っている。その際、茶話会などを開き、施設の理解を深めていただくよう心がけている。また、積極的に地域企業のボランティアの受け入れを行っている。	
3 ユ ニ ツ ト 2		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の見学希望者を随時受け入れている。また、学生や資格取得の為の訓練校などの実習生の受け入れも積極的に行っている。また、地域中学校の職場体験を受け入れている。	
4 ユ ニ ツ ト 2	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員個々で分担して行い、全体を皆で検討するようにしている。それによって自分達のケアの見直しに活かしている。また、外部評価でのアドバイスを活かし、ケアの向上に役立てている。	
5 ユ ニ ツ ト 2	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告やヒヤリハットも報告したり、相互が質問を交わし合うなど、情報交換したりアドバイスをもらいながらサービスの質の向上に役立てている。また、地域の社会資源の活用にあたって相互に情報提供している。	
6 ユ ニ ツ ト 2	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	キャラバンメイトの資格を持つ職員を増やす取り組みに努め、認知症サポーター養成講座など、市との連携をはかっている。また、サービスの取り組み方などで不明な点があれば随時相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7 ユニット2	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度の職員ミーティングの中で身体拘束に関する研修を定期的に取り入れ、身体拘束について正しく理解できるように努めている。また、職員が協力し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
8 ユニット2		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度の職員ミーティングの中で、定期的には高齢者虐待に関する研修を取り入れている。また、施設内で虐待がないように職員間でも注意を払っている。		
9 ユニット2		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に1度の職員ミーティングの中で、権利擁護に関する研修を取り入れている。現在は実例も複数あり、活用しており、その都度理解を深めていくようにも心がけている。		
10 ユニット2		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	安心して利用して頂けるよう契約の際には、こまめに疑問がないか問いかけるようにしている。また、重要説明事項説明書と契約書の控えをわたし、疑問点などあれば、その都度対応している。		
11 ユニット2	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要説明事項に苦情についての窓口や解決に向けての流れなどを記載している。また、苦情受付第三者委員を設置している。玄関に意見箱を設置し意見の出しやすい環境作りに努めている。		
12 ユニット2	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や施設長が毎月4回、入居者や職員と一緒に食事をする機会を設け、その際に職員からの意見や要望、提案を聴き、反映できるように努めている。また、施設長や管理者、ユニットリーダーで会議を行うことで意見を反映できるように努めている。		
13 ユニット2		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成する際に前もって希望の休みを聞き、生活スタイルに対応して働きやすい環境になるように努めている。また、代表者の現場訪問による現状把握と施設長や管理者との情報交換などから職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14 ユニ ット 2	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	月に1度のミーティングの時に様々な研修を 取り入れたり、外部研修の案内を回覧し、情 報提供している。有給休暇を確保し、働きな がら積極的にトレーニングを行えるように努め ている。		
15 ユニ ット 2		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、ブロックの研 修会や懇親会に出席するなど、同業者との ネットワーク作りや交流をはかるように努めて いる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16 ユニ ット 2		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の情報収集のため職員同士で話し 合って情報を共有している。また、本人自身 からも聴きとりの機会をつくったり、表情から 気持ちや感情を汲み取り、本人の安心を確 保するよう努力している		
17 ユニ ット 2		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入所される前後で家族としっかり話をし、不 安な点や困っている点を聴きながら家族との 信頼関係の構築に努めている。また、面会時 を利用し普段から相互に情報を交換してい る。		
18 ユニ ット 2		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	センター方式などにより、本人の希望や問題 点を見極め、家族や本人とのコミュニケーション の中から優先順位を判断し、確認したうえ でニーズをつかみ職員全員で検討しながら サービスに反映できるように努めている。		
19 ユニ ット 2		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の趣向を理解し、家事にも積極的に 参加してもらい入居者それぞれにあった支援 を計画するとともに、一緒に取り組むよう努め ている。		
20 ユニ ット 2		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会時や電話連絡などの際、ホームでの様 子をお知らせし、家族と話す機会を作る。家 族が協力できる事があれば、協力して頂きな がら支援するように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21 ユニット2	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、地名や名前等を会話に入れたり、友人に面会に来て頂いたり、ニーズに応じて外出介助をするなど、また、家族にも協力をお願いしながら支援していくように努めている。		
22 ユニット2		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性やプライバシーを尊重しながら事前の情報やセンター方式、日々感じた事から、個々の性格や個性を活かすと共に、相性などを把握して職員も会話の中に入りながら孤立する事のないように努めている。		
23 ユニット2		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、本人の所へ足を運ぶなどしている。また、家族と連絡を取り合いながら今後の相談など、支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24 ユニット2	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を聴きながら、自己決定を尊重している。今までの生活歴や一人ひとりのアセスメントをしっかり把握したうえで、希望や意向を聴き、真心を持って対応に努めている。		
25 ユニット2		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前の家族との話の内容や、センター方式、情報提供資料などを回覧し、内容を常に把握できるように努めている。また、情報を事務所の観覧しやすい場所に置き、いつでも見直せるようにしている。		
26 ユニット2		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々職員同士でしっかり申し送りを行い、ケアが途切れないように努めている。また、月に1度のユニット個別ミーティングの中で一人ひとりについて話し合い、心身の変化や現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12) ユニット2	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を行い、家族の意向や本人の意向を反映させながら介護計画を作成している。また、面会時や電話連絡などで、本人の様子を伝えるようにし、必要に応じてケアに取り入れるように努めている。		
28	ユニット2	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に細かく記録し、特別変化があった場合は連絡ノートに記入するようにし、情報を共有するようにしている。また、必要に応じて職員同士や家族と話し合い介護計画の見直しに細部に渡り活かせるように努めている。		
29	ユニット2	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに応じて外泊や外出介助を行ったり、地域の美容院に散髪に来て頂いたり、定期的な日程以外のドクターの往診の依頼などを行っている。		
30	ユニット2	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室に訪問してもらい、散髪してもらったりしている。また、定期的に地域ボランティアを受け入れるなどし、楽しく暮らせるように努めている。また、新しい社会資源の活用を積極的に行っている		
31	(13) ユニット2	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を設けおり、適切な医療やアドバイスを受けられるよう、情報提供も行っている。また、かかりつけ医の決定は本人や家族が、納得できるよう説明し、自由に選択できるようにしている。		
32	ユニット2	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の気になる点や気づきなどを訪問看護や看護職員に随時相談しており、急な体調不良が発生した場合などに適切な処置やアドバイスを受けられるように努めている。		
33	ユニット2	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に足を運び、家族や主治医、医良相談員などと情報交換をし本人の状況把握に努めている。また退院後、適切なケアができるように、職員同士で情報を共有し、受け入れ態勢を整えておくように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34 ユ ニ ツ ト 2	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における指針」について、事業所でできる事、できない事を説明し、同意をいただいている。また、控えを家族にわたすようにしている。また、かかりつけ医や協力医療機関にも相談しながら取り組んでいる。		
35 ユ ニ ツ ト 2	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ミーティング時にリスクマネジメントについての研修を取り入れ、ヒヤリハットのあり方を再認識して事故防止につなげられるよう努めている。また、救急隊員による応急手当の実習に加えミーティング時の研修でも応急手当を取り入れ、救急対応マニュアルを整備している。		
36 ユ ニ ツ ト 2	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や水害などの訓練は行っていないが、避難訓練の前に配布する案内の中に天災について触れたものを掲載し、火災だけでなく地震や水害時にも協力が得やすくなるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37 ユ ニ ツ ト 2	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないようにする事を念頭に置き、言葉かけや対応に注意している。また、月に1度のミーティングの中で、対応についての研修も行っている。個人情報取り扱いには十分に注意を払っている。		
38 ユ ニ ツ ト 2		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の体調を考慮し、本人の希望を聴くようにし、希望を出し易い環境作りや、自己決定し易い声かけ、対応をするように努めている。また、意思疎通の困難な方場合は、生活歴などから、思いを汲めるように努力している。		
39 ユ ニ ツ ト 2		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の申し送り時にグループホーム職員の心得を唱和し、日々自分達が意識していくと共に、個々のペース、心身の状況に応じ、希望に添った支援ができるようにニーズを掴むよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	ユニット2	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、地域的美容院に散髪に来て頂いている。要望がある場合には、家族と連絡を取り合い、できるだけ要望が叶えられるよう努めている。好みの身だしなみやおしゃれが楽しめるよう支援を行っている。		
41	(18) ユニット2	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、昼食、夕食3食とも作るようにしている。調理や配膳、片づけもできる範囲で一緒に参加して頂きながら支援している。また四季を感じられる料理献立などを取り入れている。		
42	ユニット2	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量などを記録し、把握するようにしている。食事摂取量の少ない方に関しては、身体状況に合わせ、工夫をしながらできるだけ摂取することが出来るよう努めている。		
43	ユニット2	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員と一緒に、個々のできる範囲内で、見守りを行いながら食後の歯磨きやうがい、義歯の洗浄などを行っている。		
44	(19) ユニット2	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的な声かけやトイレ誘導をし、排尿、排便が滞らないように主治医や看護師と連携をはかりながら調製し、自立に向けた支援をしている。		
45	ユニット2	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の水分補給をこまめに行い、また食物繊維の多い食材を取り入れ、バランスのとれたメニューを心がけている。適度な運動(ラジオ体操や散歩)を取り入れ、主治医や看護師と連携をはかりながら支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に2日おきに行い、本人の希望に応じた時間、入浴方法で楽しく気持ちよく満足して頂けるように心掛けている。また、体調に合わせて清拭などに対応している。入浴予定日外の方は足浴を楽しんでいただいている。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の場合や夜の就寝までの時間など、その人のペースでゆっくりのんびりと過ごして頂けるように努めている。眠れない時にはできるだけ寄り添うようにしたり、飲み物を飲んだりする安心して眠れるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬状書を事務所の見やすい場所に置き、再確認しやすいように工夫している。内容に変更があった場合は連絡ノートに記入し、情報を共有している。また、服薬ミスがあった場合の対応ルートを明確にしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式や事前資料、家族や本人との会話の中から本人の生活歴などを把握し、家事などに積極的に参加して頂きながら喜びを感じられる支援していくように努めている。また、気分転換に散歩なども行っている。		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、家族と相談しながら連携を図ったり、出来る限り希望が叶うように努めている。天候が良い日には、散歩に行くようにしている。また、定期的に花見や紅葉見学などの外出や、外食なども取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51 ユニット2		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の了解を得て、お金を預かるようにし、希望があれば使えるように支援している。		
52 ユニット2		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる範囲で職員と一緒に家族へ向けて年賀状を書くようにしている。また、電話の要望があれば家族と相談のうえ、応じられるように努めている。		
53 ユニット2	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた絵画や装飾物などで、季節感を持って頂けるように努めている。また、音楽を流したり、個々の写真やパネルなどを作成し、掲示するなどアットホームで過ごしやすい雰囲気作りに努めている。		
54 ユニット2		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士と一緒に過ごしやすいよう、ソファなどの位置を工夫している。また、バルコニーにテラスや花壇を設けたり、室内のみでなく思い思いに過ごせるように工夫している。		
55 ユニット2	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、なるべく本人の馴染みの物を置いて頂くようにし、居心地良く過ごして頂きやすくなるように努めている。また状況に合わせて居室内での安全確保にも努めている		
56 ユニット2		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレなどに手すりを設置し、安全に過ごして頂けるように努めている。また、トイレや浴室のドアには、わかりやすいように目印を付けるなど工夫している。特に滑りやすい場所には転倒防止の工夫を施している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあやらぎ

作成日：平成 28 年 5 月 23 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14	外部研修や内部研修がスタッフ全員に生かせていない。研修から各スタッフ個人のスキルアップに繋がられるようにする。外部研修への参加機会の充実を図る必要がある。	各スタッフに研修の紹介を増やし参加機会を充実させてより多くの研修参加に努めていくと共に、スキルアップにつながるように活用していきたい。	社内研修の年間計画を作成し参加者名簿を作成する。未受講のスタッフには研修資料配布と、受講スタッフからも内容補足などを行う。外部研修の紹介機会を増やしたり、早めの告知、義務扱いにするなどの少しでも参加しやすいような配慮を行う。	12ヶ月
2	35	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけていない。	従来おこなっている施設での消防署の救命救急講習に必ず参加が出来るように計画を行い、常に緊急時の対応の意識を持つようにする。	年2回の消防避難訓練時の消防署の協力による救命救急講習に加え、外部の訪問看護ステーションの協力による開催や法人グループ他事業所の開催する救急救命講習などへの参加など参加機会を増やすことにより訓練の継続と充実を図る。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。